



目指す学校像『笑顔・感動いっぱい 虹色に輝く みんなの学校』



「親子・家族コミュニケーションツールにお手伝い」



校長 高柳 政行

お手伝いはスポーツと違いはっきした勝ち負けはありませんが、家族全員の生活が快適になり、家事のスキルもアップして生活力が身につきます。



さて、ここで、お手伝いの効果・効用を4つに分けて考えてみましょう。

1つめは、子どもにとっての効力です。

子どもにとって、できることが増えたり達成経験が増えたりするというよさが考えられます。そのよさは、自己肯定感や自己効力感などのアップにつながり、精神的な自立を促すことが期待できます。

2つめは、子育てにとっての効力です。

お手伝いをしてもらおうと、自然とほめる機会が増え、「ほめて、認めて伸ばす子育て」につながりやすく前向きな子育てを体感することになるでしょう。(ここで大事なことは、完璧は求めないことです。お手伝いをする姿勢を大切にしましょう。)

3つめは、親にとっての効力です。

子どもと一緒に掃除や料理・片付けなどしている場面を想像してみてください。時間はかかるかもしれませんが、なんとか家事は進むものです。また、「子どもにとって勉強になった。いい経験をさせてあげられた」など親としてのポジティブな感情や満足・達成感なども感じることもできるでしょう。



4つめは、家族のコミュニケーションアップの効力です。

家のお手伝いは家族(両親、祖父母、兄弟姉妹など)との会話が弾むことにもつながるでしょう。例えば、子どもがサプライズで靴を磨いてくれたとしましょう。お家の人は、「うれしいな。ありがとう」子どもは、「うん。くつよごれたから。みがいてみた」など、家族との会話や笑顔が増えることでしょう。



最後にキャッチボールを思い浮かべてください。私は、キャッチボールもお手伝いもコミュニケーションの一つだと感じています。今年の夏休み、これまで以上に、一緒に家事に取り組んだり役割を決めてお手伝いをしてもらったり(させたり)する時間を作ってみてはいかがでしょうか。

是非、家族でのコミュニケーションツールの一つにお手伝いを選択肢に入れてみてください。